

# 建物の歴史 守り動かす

厚生労働省は8日、卓越した技能を持つ2019年度の「現代の名工」150人（男性139人、女性11人）を発表した。表彰式は11日、東京都内で行われる。最高齢は、高度な結髪技術で元皇族の髪結いも担当した京都府の美容師、山中恵美子さん（90）、最年少は東京都の建築大工、池田和史さん（40）だった。

茨城県土浦市の建築とび工、川島一男さん（71）は、建物を解体せずそのままの姿で移動させる「曳家工事」の第一人者。「培った技術を生かして、依頼主に驚きと喜びを与えられる最高の仕事です」と語る。

曳家工事は、建物の下にレールを敷き、油圧ジャッキで持ち上げて移動させる工法。建物本体を傷つけないため、歴史的建造物の移築などで採用されている。

15歳で父親が営む工務店に入り、これまでに動かしってきた住宅や寺は200棟以上に上る。建物の重さは数十トにも達し、移動距

離は最大で100メートルを超えた。スケールの大きな工事だが、数秒でも狂いがあれば傾きが生じ、うまく移動



曳家工事の経験と技術が評価され、「現代の名工」に選ばれた川島一男さん（茨城県土浦市で）

## 現代の名工に150人

させることはできない。移動の前に建物の柱の曲がり具合などを入念に調べる。「傷んだ柱は枕木で支えろ」「鋼材で強化しよう」。長年の経験と勘を頼りに指示を出し、すべての工事を無事に終えてきた。

心に残っているのは、東日本大震災後の地盤沈下で傾いた水戸市のそば店を移設した時のこと。約30メートルに移動させる工事が終わると、店主夫妻から「再建は無理かなと諦めかけていた。よくぞここまでやってくれた」とうれしそうに言われ、大きなやりがいを感じたという。

同じくとび職の道を選んだ息子2人とともに、今も現役で働く。「思い出が詰まった家を残したい」という期待に一つでも多く応えたい。せがれの成長も楽しみだよね。日焼けした顔に優しい笑顔が浮かんだ。